

2. 外環整備に伴う課題と対応の方針

「検討すべき課題」は、地域課題検討会やこれまでオープンハウスなどで頂いた地域のみなさまのご意見を、交通、環境、まちづくりなどの項目に分類整理したものです。

「対応の方針」は、これらに対し、今後の進め方を含め国と都の考え方を示したものです。

1. 交通

(1) 地区交通

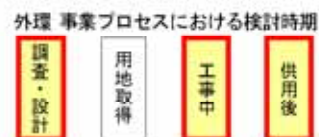
- ① 生活道路の交通量が増え、住宅街での渋滞の発生や住環境の悪化への懸念
- ② 大泉街道と目白通りを結ぶ計画の道路の通過交通についての懸念
- ③ 生活道路における渋滞や安全性が改善されることへの期待

○これまでに頂いた意見

- 現在の出入口を変更することはなさそう。その代わり、道路渋滞緩和策は考えているのか心配だ。渋滞が悪化しないためにも、区と連携した地区交通計画を立てるべきである。
- 生活道路への通過交通の流入が懸念されるため、通過交通が地域へ流入しない工夫について検討すべき。
- 地区内交通が混雑することが心配である。地区内交通の混雑を防ぐために標識などのわかりやすいサイン計画の整備を望む。

(国)

- 外環を含めた幹線道路ネットワーク整備が概ね完了した時点では、環状8号線の交通量が減少することなどにより、生活道路を走行していた通り抜け自動車が幹線道路を走行するなど交通の転換が促され生活道路に入り込んでいた通過交通が減少し生活道路の安全性が向上する等の効果があると見込んでいます。
- 大泉インターチェンジ周辺の生活道路に進入する通過交通に対する、ハンブや標識の設置などの対策については、事業の進捗に合わせ、地域のみなさまの意見を聴きながら練馬区等関係機関と協力のもと検討を進め、適切な役割分担のもと進めていきます。



参考: 歩行者交通安全対策の事例

○品川・旗の台地区

最大積載量 3t 以上の貨物自動車等通行止め規制を併用したゾーン規制、交通信号機の改良、ハンプの設置等により、交通量の減少、走行速度の低下、振動・騒音の減少の効果が見られました。



旗の台地区の概要



ハンプの設置状況

資料: 国土交通省道路局ホームページ

○大阪・豊新地区

コミュニティゾーンの形成により、交通事故が年間 60 件から 23 件へと減少しました。



手前から奥に向けての通過交通に対し、手前に向かう方向で一方通行規制を適用するとともに、コミュニティ道路としても整備



2車線道路を一方通行とし、コミュニティ道路として整備

資料: 国土交通省道路局ホームページ

○三鷹・上連雀地区

地区内の流入交通量約47%の減少、ハンプ設置による自動車走行速度の減少、交通事故数が年間31件から14件へと減少(ハンプの設置、歩道の拡幅・整備、センターラインの除去を行った道路の事故件数)といった効果が見られました。



上連雀地区の概要



ハンプの設置



カラー舗装(狭く見せる工夫)



ボード(狭さく)の設置

走行速度の変化

速度区分	午前(7~9時)		午後(15~17時)	
	対策前	対策後	対策前	対策後
最高速度	62	46	54	41
平均速度	38	28	39	29
85 th パーセンタイル値	43	30	43	30

交通事故数の変化(1996年は事業実施中)

事故種別	事前			事後			前後比較
	1994	1995	平均	1997	1998	平均	
死亡	0	0	0	0	0	0	0
重傷	0	4	2	1	0	0.5	-1.5
軽傷	21	37	29	13	14	13.5	-15.5
合計	21	41	31	14	14	14	-17.0

資料:国土交通省道路局ホームページ

(2) 幹線交通

- ① 目白通りや目白通りインターチェンジ周辺をはじめとした周辺交通の混雑についての懸念
- ② 目白通りなどの混雑改善や地域の利便性向上への期待
-
- これまでに頂いた意見
- 目白通りがさらに混雑するのではないかと心配している。混雑緩和のために、北園交差点から西の早期延伸を望む。
 - 現在不便なので、関越から目白通りへの降り口を大泉インター付近に設けて欲しい。

(国)

- 外環が整備されると、環状8号線などを利用していた通過交通が外環に転換することにより、目白通りなどを含めた周辺道路の交通量は減少し、渋滞緩和が期待されます。
- 外環を含めた幹線道路ネットワーク整備が概ね完了した時点では、周辺の道路整備を合わせておこなうことにより、目白通りインターチェンジ周辺については、円滑な交通流動の実現が図られると見込んでいます。
(P352「参考:練馬区周辺地域における主要道路の交通量の変化」参照)
- 供用後に、環状8号線など周辺道路の交通の状況を調査して外環の整備効果を検証し、公表します。

外環 事業プロセスにおける検討時期			
調査・設計	用地取得	工事中	供用後
- しかしながら、目白通りインターチェンジ周辺の渋滞等の交通環境への影響については、事業の進捗に合わせ、沿線区市、関係機関と協力の下、現地の状況の把握、インターチェンジ周辺の交通分析、将来の土地利用動向などを踏まえ、交差点改良や右左折レーンの設置などの具体的な対策について地域のみなさまの意見を十分聴きながら検討し、適切な役割分担のもと進めていきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期			
調査・設計	用地取得	工事中	供用後
- 「区部における都市計画道路の整備方針」において、都市計画道路を計画的かつ効率的に整備するため、東京都及び特別区により概ね10年間で優先的に整備すべき路線に位置づけられている補助135号線や放射7号線など、整備予定である都市計画道路については、早期整備に向けた補助制度の活用など必要な支援について協力していきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期			
調査・設計	用地取得	工事中	供用後
- 関越道から目白通りへの出口の設置については、実現性について、関係機関へ働きかけて行きます。

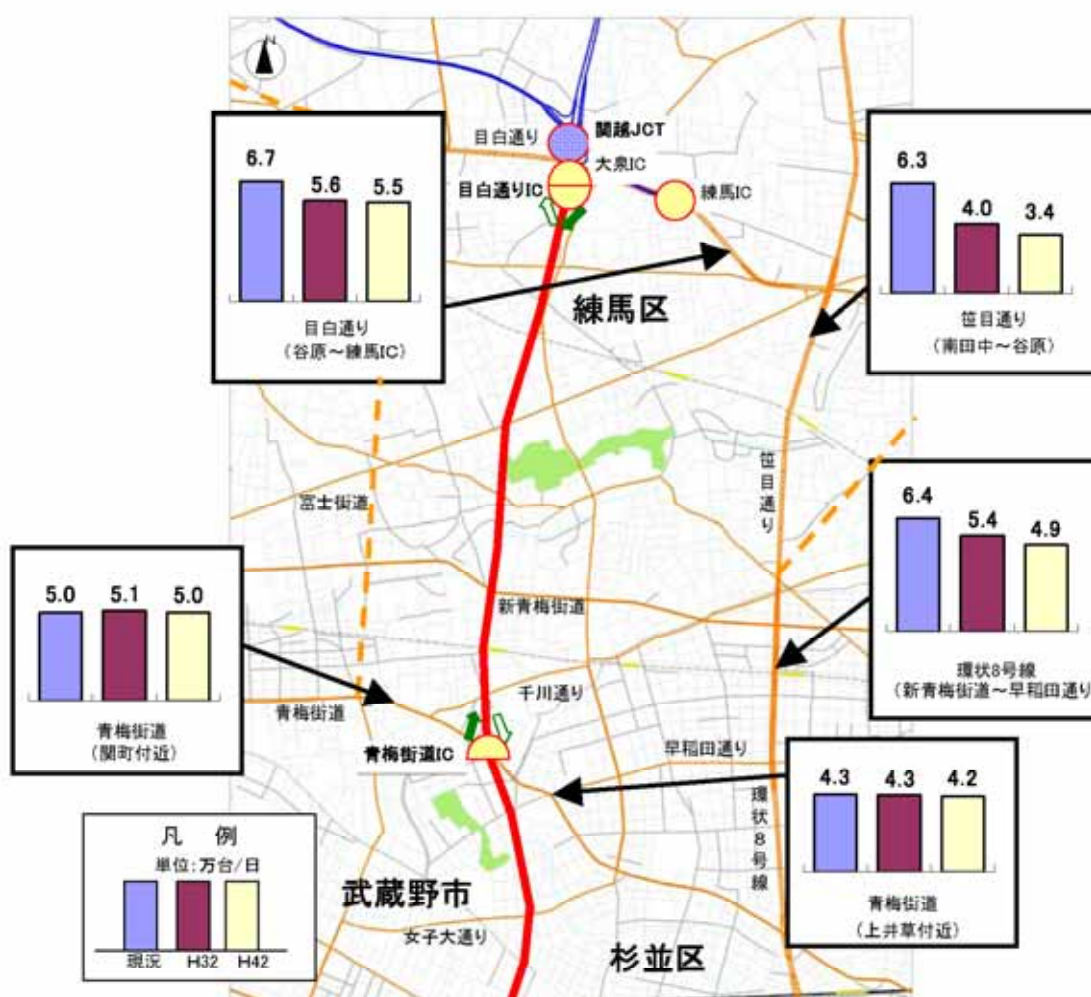
外環 事業プロセスにおける検討時期			
調査・設計	用地取得	工事中	供用後

(東京都)

- ▶ 外環の高速道路としての機能を最大限に発揮することに加え、周辺生活道路への通過交通の流入を極力抑えるためには、外環の完成を見据え、都市計画道路ネットワークを計画的に整備していく必要があります。
- ▶ 大泉ジャンクション周辺において、既に事業に着手している放射7号線については、早期完成に向け、着実に事業を進めてまいります。

参考:練馬区周辺地域における主要道路の交通の変化

外環整備に伴う周辺道路の交通への影響などについて具体的に検討するため将来交通量推計を行っています。練馬区周辺の主要道路の将来交通量は、現況値に対し、ほとんど変化なし、もしくは減少するものと見込んでいます。



※将来交通量推計の前提条件

- ・ 将来交通量の予測年次は、外環道の供用開始年次を想定した平成32年及び幹線道路ネットワークの整備が概ね完了した状態を想定した平成42年としています。
- ・ 平成11年度道路交通センサスなどのデータを基に作成した将来OD表(地域間を行き来する自動車交通の移動量)により推計しています。

参考: 区部における都市計画道路の整備方針

東京都及び特別区より、区部における都市計画道路の整備方針が示されています。都市計画道路の必要性の検証、優先整備路線の選定等の方針に基づき、都市計画道路の整備を推進します。



「区部における都市計画道路の整備方針」の主な内容

- 1 区部における都市計画道路の「必要性の検証」**

区部の都市計画道路を対象として、東京が目指すべき都市づくりにおいて今後とも必要性が認められるかを「4つの基本目標」に基づいて検証を行い、「都市計画の見直し候補区画」として5区画を決定しました。
- 2 「第三次事業化計画」優先整備路線**

「必要性の検証」において、今後ともその必要性が確認された都市計画道路のうち、今後12年間（平成16年度～27年度）で優先的に整備すべき区画を「4つの基本目標」に基づいて決定しました。
- 3 都市計画法第53条に基づく「都市計画道路区域内における建築制限の緩和」**

都市計画法第53条に基づく都市計画道路区域内における建築制限に関する新たな緩和基準を設けます。
- 4 概成道路における「新たな整備手法」の提案**

既に一定の道路幅員を有し、道路としての機能を兼ね備えている概成道路における歩行者空間の確保のために、新たな整備手法を検討しています。

資料: 「区部における都市計画道路の整備方針」(東京都・特別区)

(3) 広域交通

① 大泉が終点となっていた外環が延伸することによる、利便性の向上への期待

○これまでに頂いた意見

- 練馬インターチェンジから首都高速につながっていないので、関越道の利用者が大泉地区の一般道路に下りることになり、交通が混雑している。首都高速10号線の早期開通を望む。
- 渋滞緩和のために新座料金所にスマートインターチェンジを導入してほしい。

(国)

- 首都高速10号線は、関越道と首都高とを接続する路線であり、関越道と都心とのアクセス性向上に資するもので、地域高規格道路の候補路線として指定されています。
- 整備については、外環、圏央道等の事業の進捗状況や社会経済状況等を見極めながら、必要性や整備手法、採算性等について、関係機関とともに調整を進めていきます。
- 高速道路の利便性の向上、地域生活の充実、地域の活性化、一般道の渋滞緩和等を図るためには、スマートインターチェンジの整備が有効であると認識しています。新座のスマートインターチェンジについては、現在、新座市、埼玉県、国、NEXCO等の関係機関で構成する新座スマートインターチェンジ勉強会を立ち上げ検討を進めているところです。今後も、地元の期待に添えるよう努力するとともに、適切に支援していきます。